

〈資料〉

第二次沖縄民事陪審裁判（2）
—1965年秋の訴訟記録—

齋藤 哲（訳）
（代表執筆者・陪審裁判を考える会）¹

This paper is a translated version of the second civil jury-trial record in the occupied Okinawa, Japan, in July 1965.

Research Group on Jury Trial

<目次>²

- 1 陪審員選定手続（Jury Selection）
- 2 正式事実審理（Trial by Jury）
 - （1）陪審員の宣誓（Oath by Jury）
 - （2）冒頭説示（Preliminary Instructions）
 - （3）冒頭弁論（Opening Statement）（ヘイグッド原告代理人）
 - （4）当事者尋問 原告ツルコ・ロバーズ氏宣誓
* 以上、マテシス・ウニウエルサリス第22巻1号（2020年）所収
 - （5）原告側証人尋問 証人チョウヘイ・トミシロ氏宣誓
 - ア 主尋問（ヘイグッド原告代理人）
 - イ 反対尋問（マクレラン被告代理人）

1 本資料の翻訳は、荒川歩（武蔵野美術大学）、飯考行（専修大学）、黒沢香（元大学教授）、四宮啓（弁護士・國學院大学）、滝田清暉（特定侵害訴訟代理人・弁理士）、新倉修（弁護士・青山学院大学）、西村健（弁護士）、齋藤哲（弁護士・獨協大学）による。いずれも陪審裁判を考える会の会員である。

2 原文に目次はなく、訳者らが便宜的に作成したものである。

- ウ 再反対尋問 (マクレラン被告代理人)
- エ 補充質問 (裁判所)
(10月26日午前11時37分: 休廷)
(同日午後1時30分: 再開)
- (6) 原告側証人尋問 証人裁判所書記官ダルシイ・M・エリオット氏宣誓
 - ア 主尋問 (ヘイグッド原告代理人)
 - イ 反対尋問 (マクレラン被告代理人)
- (7) 原告側証人尋問 証人ジョージ・ホール氏宣誓
 - ア 主尋問 (ヘイグッド原告代理人)
 - イ 被告代理人による限定的反対尋問 (マクレラン被告代理人)
 - ウ 補充質問 (裁判所)
 - エ 主尋問 (再開) (ヘイグッド原告代理人)
(10月26日火曜日午後3時7分: 休廷)
 - * 以上、本号所収
- オ 補充質問 (裁判所)
- カ 反対尋問 (マクレラン被告代理人)
- (8) 原告側証人尋問 証人ヘイグッド原告代理人宣誓
- (9) 非公開審理
- (10) 被告側証人尋問 (非公開審理) 証人エドワード・N・ハリマン氏宣誓
- (11) 被告側証人尋問 証人ジョン・ベラミー氏宣誓
- (12) 被告側証人尋問 証人エドワード・N・ハリマン
- (13) 最終弁論 (マクレラン被告代理人)
- (14) 最終弁論 (ヘイグッド原告代理人)
- 3 説示 (Instruction)
- 4 評決 (Verdict)

ヘイグッド代理人： チョウヘイ・トミシロさんを証人として呼んで頂けないでしょうか？ 彼は、法廷の外にいます。彼が次の証人です。
（延吏が証人を警護するために離れ、戻ってきて、日本語で証人に宣誓させた。証人は証言台に立った。宣誓した原告側証人のチョウヘイ・トミシロ氏は、日本語で通訳を通して以下のように証言した。）

主尋問

ヘイグッド代理人からの質問

Q： お名前とご住所をおっしゃって下さい。

A： チョウヘイ・トミシロです。住所はコザ市字湊175です。

Q： トミシロさん、あなたは1959年10月30日の朝、カービィ・ロバーズ氏を轢いて死なせた自動車の運転手ですね？

A： はい。

Q： その時の極東建設サービス社でのあなたの仕事は、どのようなものでしたか？

A： 私は極東建設サービス社で重機の責任者をしていました。

Q： ロバーズ氏を死亡させた時、あなたが運転していた乗り物の所有者は誰ですか？

A： それは会社の車でした。

Q： 「会社の」というのは、極東建設サービス社という意味でしょうか？

A： はい。

Q： 最初に極東建設サービス社に仕事に行ったとき、あなたは自動車の運転免許証を持っていましたか？ 持っていませんでしたか？

A： はい。私は免許証を持っていました。

Q： 極東建設サービス社に雇われていた期間、ロバーズ氏が死亡するまで、誰か雇用者、つまり、会社の責任者の誰かが、あなたに、車の運転は禁じられていると言いましたか？

A： いいえ、言われませんでした。

Q： しかし本当に、車の運転は禁じられていると誰一人ははっきり言わなかったのですか？

マクレラン代理人： 異議があります。過剰な誘導があると思います。

裁判長： 「誘導」と言いましたか？

マクレラン代理人： はい。裁判長。

裁判長： では、その異議の根拠は認めませんが、(質問の) 繰り返しを根拠に異議は認めます。既に尋ねた内容だと思えます。

ヘイグッド代理人： 裁判長、私は、車を運転するように明確に言われなかっただけでなく、また、運転しないようにも言われなかったということを明確にしたかっただけです。私は、陪審の皆さんに、この点を理解頂きたいだけです。

裁判長： わかりました。繰り返したいのであれば、繰り返すことを許可します。繰り返しても結構です。

ヘイグッド代理人： では、質問を言い直します。質問を撤回して、この質問を言い換えたいと思います。

Q： 質問は以下です。トミシロさん、車を運転するようには言われなかったということですが、車の運転をしないようにとも、はっきり言われなかったのですか？

裁判長： 今、あなたは彼を誘導しています。彼が車を運転できるとははっきり言われたかどうかについてなら彼に聞くことはできます。

ヘイグッド代理人： 彼は既にそれには答えています。

裁判長： 同じことにはならないのではないですか？

ヘイグッド代理人： そうですね。質問を、両方の質問を撤回します。裁判長。

裁判長： わかりました。

Q： トミシロさん、ロバーズ氏が死亡した夜、あなたが運転していた車は――。

ヘイグッド代理人： 言い直します。

Q： トミシロさん、ロバーズ氏が死亡した事故に先立って、どこから車に乗りましたか？

A： 会社の建物からです。

裁判長： 会社のどこから？

通訳： 建物、会社の建物からです。

Q： あなたが会社の敷地を車で出たとき、門で会社の敷地から誘導する守衛はいましたか？

A： 守衛が一人いました。

Q： あなたが会社の敷地を離れた時、その守衛からみれば、外出することが必要でしたか？

A： はい。

- Q： その守衛は、会社の敷地からあなたが車で出るのを止めようと、何かしましたか？
- A： 何もませんでした。
- Q： その守衛は、ゲートを通るとき、あなたに手を振るか、あなたが車で会社の門を通過することを認めるような、なんらかのサインを送りましたか？
- A： はい。彼は私に手を振りました。その守衛は、いつも私に手を振ります。
- Q： その守衛は、極東建設サービス社の従業員ですか？
- A： はい。
- ヘイグッド代理人： トミシロさん、ありがとうございます。他の質問はありません。
- 裁判長： 記録のため。誘導であることを根拠にして、申し立てられた異議が却下されたのは、裁判所の意見として、その質問が代理人に望ましいものだったからです。これは単に記録のためです。
- 代理人、反対質問をされますか？
- マクレラン代理人： はい。裁判長。

反対尋問

マクレラン代理人からの質問

- Q： トミシロさん、あなたは重罪で、起訴され有罪判決を受けたことがありますか？
- A： 私の知っている限り、違反切符だけです。
- Q： この事故に関して、何年間、刑に服しましたか？
- A： 罰金刑だけでした。
- Q： あなたは罰金刑だけで、このことで、何の懲役刑も受けなかったのですね？
- A： はい。
- Q： では、現在のことについてお聞きします。あなたは運転免許を持っていませんでしたか？
- A： はい。私は——（聴き取れず）——には、持っていませんでした。
- 裁判長： 最初には？
- A： はい。最初は持っていませんでした。
- 裁判長： 最初は？

通 訳： はい。

Q： 1959年10月30日には、あなたは有効な運転免許証を持っていましたか？

A： 私の免許証の有効期限は切れていました。

Q： その夜、あなたは運転免許を持っていなかったのですか？ トミシロさん。

A： その通りです。

Q： 会社の規約では、夜に免許証なしに公道で運転することを従業員に許可しているのですか？

ヘイグッド代理人： 主質問の範囲外での質問ですので、その質問には異議を申し立てます。そのことには証拠がありません。トミシロさんが会社の規約を知っていたという証拠は憶測に基づくものです。

裁判長： さて、原告はこの点に関する質問をしていると考えます。また、証人が会社の規約を知っているかどうかは、彼の質問から明らかになると思いますので、私は、この質問を許可します。（しばらくの沈黙の後）質問を覚えていますか？

通 訳： いいえ。

Q： 極東建設サービス社の規約では、夜に免許証なしに公道での運転を従業員に許可しているのですか？

A： そのような規約はありません。

Q： 何の規約もなかったという意味ですか？ もし望めば免許証なしでも運転できるという意味ですか？ どういう意味ですか？

A： はい。

Q： 会社の規約は、免許証なしに公道で運転することを従業員に許可していないという意味ですね？

A： その事故まで、彼は自分の免許はまだ有効なのだと思っていました。それが、彼が運転していた理由です。

裁判長： 何ですか？ いつまでですか？

通 訳： 事故が起こるまで、彼は、自分の免許証はまだ有効だと思っていました。

Q： トミシロさん、1959年10月30日までに公道で会社の車を運転したことはありますか？

A： 彼は、敷地内における重機の修理の責任者であったので、彼は公道を運転することは非常にまれなことでした。

Q： あなたは1959年10月30日までに公道で会社の車を運転したことはありますか？

A： 覚えていません。

Q： 前の裁判で、その夜まで公道を会社の車で運転したことはなかったと、あなたは証言していますが、これは真実ではないのですか？

A： 真実です。

Q： では、あなたが、自分のジャケットを取りに行くために車でシモブクまで運転しているところであったというのも真実ではないのですか？

A： 真実です。

Q： この外出が、あなた自身の快適さのためであり、会社のためではなかったというのも真実ではないのですか？

ヘイグッド代理人： 裁判長、反対質問ではある程度の裁量は許されているのは理解していますが、少し前に私が質問した際、被告代理人は、私が証人を誘導していると異議を申し立てました。今回、彼が、特に今の質問で証人を誘導していると私は異議を申し上げたいと思います。

マクレラン代理人： もし裁判所が反対質問を許されるのであれば、誘導は反対質問で、完全に何の問題もないものです。

裁判長： 反対質問ではそうです。続けて下さい。

ヘイグッド代理人： 裁判長、聞いてもいいですね？

裁判長： はい。

ヘイグッド代理人： 裁判長、彼は、主質問の範囲から大幅に逸脱しています。実際に、主質問で言及されていないことについて質問することで、証人を自分自身の主張に沿わせています。なお、誘導質問は、証人の信頼性に影響し、主質問で言ったかもしれないことと矛盾したことを言わせる傾向があります。これは許容されるものです。しかし、私たちが主質問でまったく検討されなかった領域に踏み込んでいるとき、反対質問は、遥かに離れたところで行われることになります。以上のことから、私は、主質問の範囲から非常に離れたところにいるとき、このような誘導質問のような質問をすることは、適切ではないと申し上げます。

マクレラン代理人： 裁判所が許可されるのであれば、代理人が、彼の最初の言及、証人に対する最初の質問、つまりカービー・ロバーズ氏が死亡したとき彼が車を運転していたかを彼に尋ねたときに、彼はこの問題への質問を可能にしたのです。私はこの範囲のなかで質問を行っています。

裁判長： 裁判所は、ある程度この点の質問は可能だと考えていますし、この点は本件で非常に重要な争点だと考えています。したがってこの質問を許します。

Q： 質問をくりかえします。ロバーズ氏が死亡した時のあなたの外出は自分自身の快適さのために上着を取りに行くものであり、会社の業務ではなかったというのは、本当ではないのですか？

A： 私は、2、3日間敷地内で仕事をしていて、服の替えをもっていなかったもので、それで、乗り切るために自分のジャケットを買いに出かけました。

Q： そうすることはあなた自身が決めたのですね？

A： はい。その通りです。

Q： トミシロさん、これまでの裁判の何れかの時に、これまでに証言した中で、その時にあなたが行った判断についてあなたを追求した人はいましたか？ あなたにその判断を追求した人はいましたか？

ヘイグッド代理人： 裁判長、主質問の範囲を外れていますので、異議を申し立てます。この点については何も言及されていません。ですので、熟練した共同被告の代理人が、この証人を自分のために用いるのであれば、彼の信頼性についても保証すべきです。彼は自らそうしようとしています。私は、証人に主質問において証言してもらったこと、つまりこの乗り物の利用に許可を得ていたかというたった1つの目的のために、証人を呼びました。ですが、被告の熟練の代理人は、この訴訟の原告によってどのような情報収集の試みがあったかという点に関して、彼から情報を引き出そうとしています。これは完全に主質問の範囲外のことです。そのため、この質問と、この点に関するあらゆる質問に対しては、被告がこの証人を呼び、被告側証人として彼をおいたのではない限り、異議を申し立てます。

裁判長： この質問は、主質問の範囲外の質問と考えますので、異議を認めません。

Q： トミシロさん、あなたが車に乗って極東建設サービス社の敷地から出ようと門を通ったとき、守衛から手を振られたと言いましたね？

A： はい、その通りです。

Q： その守衛は、なんらかの警備員なのですか？

A： はい。彼は警備員でした。

Q： 彼は、人々から車両が盗まれないようにする目的でそこにいたのですか？

A： 彼は、敷地内から何も盗まれないように、気をつけるためにそこにいました。

Q： あなたは、重機の責任者であったと言いました。それは、機械工の主任であったということですか？

A： 彼は、重機すべての責任者であり、そして（聞き取れず）

裁判長： 何の？ 記録？

通 訳： いいえ。

A： 車両です。

マクレラン代理人： 通訳の方、「彼」という言葉を使っておられますが、誰を指していますか？

通 訳： 彼は、「私自身」、「私」と言っています。

Q： その守衛は、会社内であなたより、上位の地位ですか？ それとも下位の地位ですか？

A： はい。彼は私よりも下です。

Q： 「彼」とは何ですか？

A： 「彼」は彼より低い地位にあります。

裁判長： 少しお待ち下さい、代理人。一人称で答えるようにして下さい。

「守衛は私よりも下です」のように言い換えて下さい。

A：（通訳はくりかえす）この守衛は私よりも下でした。警備員は私よりも下でした。

Q： では、その門の守衛は、あなたが個人的目的で、車両に乗って出かけるのを止める権限を持っていましたか？

ヘイグッド代理人： その質問には異議を申し立てます。証人の立場で意見を求めるものです。

マクレラン代理人： 彼が知っているかどうかを質問したいと思います。

Q： あなたは、その門の守衛はあなたが個人的目的で会社の車を持ち出すのを止めるなんらかの権限を持っていたかどうか知っていますか？

裁判長： 質問を許可します。

A： その警備員は、その人を個人的に知っていれば止めないと思いますが、知っていなければ、彼は止めると思います。

Q： その警備員はあなたを知っていましたね？

A： はい。彼は私をよく知っていました。

Q： その夜出る前に、あなたは誰かに、あなたが自宅に個人的用事で行か

るつもりだと言いましたか？

A： いいえ、言っていません。

Q： 個人的用事で出かけるのに、誰かの許可を得ましたか？

A： いいえ。得ませんでした。

マクレラン代理人： 以上で質問は終わります。

裁判所からの質問

Q： トミシロさん、乗り物に乗ったとき、その日の仕事、やるべき仕事は終わっていましたか？

A： まだ仕事の途中でした。

Q： では、あなたはまだ仕事の途中だったと言いましたが、仕事は何時まででしたか？

A： その日は夜8時まで働いていました。

Q： 何は8時まで、とおっしゃいました？

A： その夜は、です。

Q： しかし、この事故が起こったのは、おおむね朝の午前1時ごろではなかったですか？

A： はい。

Q： ではその事故の夜の仕事は、何時までだとおっしゃりたいのですか？

A： ほぼ真夜中までだったと思います。

Q： つまり、あなたは、仕事を終えていた。そうおっしゃっているのですか？

A： 私はまだ工作中でした。仕事のシフトが変わったので、上着を取りにでかけました。

Q： 事故は1959年10月30日の午前1時頃起こったと思いますが、そうですね？

A： はい。

Q： わかりました。だいたい何時頃まで仕事をするようになっていましたか、また、1959年の10月30日は仕事に行く予定があったのですか？

A： その時は人手が足りないときで、その夜は一晩中働かなければなりませんでした。

Q： そこで、あなたは自分のジャケットを取りに行っただけですか？

A： はい。

Q： そして、あなたは会社に戻る予定だったのですね？

A： はい。

Q： では、あなたが会社に戻った後は、何時まで、会社で働く予定でしたか？

A： 朝の8時までです。

裁判長： 再主質問はありますか？

ヘイグッド代理人： 不要です。裁判長。

マクレラン代理人： 裁判長、今裁判所が質問されたことに関し、1、2の追加質問があります。

裁判長： 結構です。

再反対尋問

マクレラン代理人からの質問

Q： トミシロさん、一晩中働くというのは、あなた自身のお考えですね？

A： その時はそうではありませんでした。

裁判長： そうではない？ つまり、彼自身の考えではないのですね？

A： （続けて）人手が足りなかったので、仕事に間に合わせるために一晩中働かねばならなかったのです。

Q： トミシロさん、誰があなたに一晩中働くように指示したのですか？

A： 一晩中働かなければならないという特定の直接的な指示はありませんでしたが、非常に多くの残務があったので、私は契約に間に合わせるために私たちは一晩中働かなければならないと、そう感じました。

Q： そのような多くの残務が残っているとき、多くの他の人も一緒に仕事をするのですよね？

A： 他にも多くの方がいますが、彼らは皆忙しかったのです。

Q： その夜は、自動車置き場で誰と一緒に働きましたか？

A： 自動車置き場には誰もいませんでした。皆仕事で出ていたのです。

Q： 本当ですか？ トミシロさん。あなたは前の裁判で、あなたはその夜働くことを決めたこと、誰もあなたと働く人はいなかったことを証言していますが、この通りですか？

A： はい。その通りです。

Q： では、重機の機械工としてのあなたの仕事に関して、あなたが重機について仕事をし、残務を処理する必要があるとき、その機械について複数の

人が対応することはありますか？

A： あります。

Q： その夜の勤務が終わってから戻ってきて、自動車置き場で一眠りした後、会社の車に乗って、コザへ行くことを決めたというのは本当ですか？

ヘイグッド代理人： 誘導的、議論にわたる質問で、また非常に多くの証拠にない事実を前提にしていますので異議を申し立てます。裁判長、被告代理人は、証人と議論しています。なお、通訳を通じて、言語の壁に阻まれながら話していることをご理解下さい。このような環境下で、被告代理人が証人を混乱させ、矛盾する証言をさせたいのならば、それは非常に容易なことでしょう。しかし、私たちは訴訟のためにここにきており、事実を得ようと努力しています。事実を混乱させるためではありません。このような理由で、私は、先の質問についての異議が認められるべきものだと考えます。

裁判長： いくつかの質問は、主質問の範囲を超えているようです。質問を変えて下さいますか？

マクレラン代理人： 裁判長、ぜひそうします。

Q： その夜は暗くなってから那覇の空軍基地での仕事を終えて帰ってきたのですね？

A： はい、そのとおりです。

Q： そして自動車置き場に運転手とともに車に乗ってもどってきましたね？

A： トレーラーでした。

Q： 分かりました。あなた以外にだれかその乗り物を運転する人がいたのですね？

A： はい。その通りです。

Q： 自動車置き場に戻ってきたとき、その夜は自動車置き場で働いている他の機械工はいませんでしたよね？

A： 彼らは皆、出払っていました。

Q： そこにいた唯一の人はあなたで、あとはさきほどの守衛でしたね？

A： その通りです。

Q： そしてあなたは、それまで2日間休みなく働いていましたね？

A： はい。

Q： あなたは疲れていて、眠かった？

A： はい。そのとおりです。

ヘイグッド代理人： 裁判長、もし被告代理人自身がこの件で証言したいのであれば、彼自身を証人として、宣誓をさせて頂ければ幸いです。彼はこの件について知っているすべてのことを話してくれるでしょう。しかし、今は、被告代理人が証言をしていて、証人はただそこに座って「はい」と言っているだけです。ほとんど彼は「はい」と言っているだけです。この一連の反対質問は、被告代理人が物語を作っていて、証人に同意するかどうかを聞いているだけであるという点で、異議が認められるべきものです。これは適切な反対質問ではありません。私には証人の言葉で語られているようには見えません。信頼性が反対質問の目的であって、正統に持ち出すことのできる本件の重要な争点を反対質問において持ち出すことではありません。私は最後の質問についてだけでなく、一連の質問の形式について異議を申し立てます。裁判所には、被告代理人に対して、自身の物語に「ですね？」という付加的な、質問を付加する形式以外で質問するようにご注意くださいようお願いいたします。

マクレラン代理人： 発言させて頂ければ、反対質問の目的は、私の法律の記憶が正しければ、裁判の他の目的と同じで、真実の探求です。これは本件で私たちが取り組んでいることであります。もし裁判所が、私の方法を制限したいとお考えでしたら、そのようにいたしますし、何が正しいかを控訴審で決めてもらおうと思います。いずれにしても、私の考えでは、これは正しい反対質問です。しかし、もし裁判所が私を止められるのであれば、私は——。

裁判長： では、裁判所としては、質問の一般的進め方については何ら規制をいたしません。証人が疲れて眠かったか否かは主質問の範囲ではありませんし、そこから派生した質問でもありません。そのため異議を認めます。

Q： トミシロさん、事故のあった時にその車を運転していたとき、その前にシモブクに、あなたは一眠りするために行きましたね？

A： はい。その通りです。

Q： あなたが眠りについたのは、どれくらい前のことですか？

ヘイグッド代理人： 関係性の低い、あるいは無関係な質問です。

マクレラン代理人： 質問を撤回します。

Q： トミシロさん、車で、守衛の前を通過して敷地を出たとき、あなた以外に運転手はいましたか？

A： いいえ。

Q： その日の他の時間、あなたは運転手と一緒にでしたね？

A： その通りです。

Q： それまではいつでも、あなたが仕事で公道に出るときには運転手と一緒にでしたね？

A： その通りです。

Q： しかし、この時だけは、運転手なしで、あなた自身で運転したのですね。

A： その通りです。

Q： 門を通過するとき、その門で運転手はあなたと何か、なんでもいいのですが、会話を交わしましたか？

A： いいえ、何の会話もしませんでした。

Q： あなたは運転手にどこに行くとか、何のために行くとか、話さなかったのですね？

ヘイグッド代理人： 裁判長、このような形式での質問には異議を申し立てます。マクレランさんは、「あなたは運転手に話さなかったのです」と言いました。

マクレラン代理人： 裁判長、言い換えます。

Q： あなたは、あなたはコザに向かうと運転手に言いました——

ヘイグッド代理人： 少し待って下さい。再びこのような形式での質問には異議を申し立てます。彼は、門での守衛との会話について話していましたが、質問は「運転手」と言っています。

マクレラン代理人： 言い直します。

裁判長： 代理人は言い間違えたのだと思います。

マクレラン代理人： 言い直します。裁判長。

裁判長：（続けて）しかし、証人は、彼は出る前、何の会話もしなかったとあなたの質問に対して答えていたことを指摘したいと思います。

マクレラン代理人： その通りです。しかし、会話ではなくても、彼が守衛に何か言うことはできました。

裁判長： 結構です。許可します。続けて下さい。

Q： トミシロさん、コザに向かって車で門を通過するとき、守衛に対して、どのように言いましたか？

A： 彼に何か話したか、会話したか覚えていません。それはかなり前のことですので、何の記憶もありません。

Q： 会社の極東建設サービス社は、その夜コザ地域で何かあなたがすべき仕

事をもっていましたか？

A： いいえ、ありませんでした。

補充質問

Q： あなたがジャケットを取りに行ったとき、どこでジャケットを手に入れようと思いましたか？

A： 私の家です。

裁判長： 彼は自分の家に向かっていたということですね？

通訳： はい。彼は、ジャケットを取りに、自分の家に向かっていました。

裁判長： 結構です。再主質問はありますか？

ヘイグッド代理人： いいえ。裁判長、ありません。

裁判長： 証人は退出して下さい。ありがとうございました。トミシロさん。

ヘイグッド代理人： 私のほうでは、この証人を呼ぶつもりはありません。完全に退出して大丈夫です。

裁判長： 被告側も宜しいですか？

マクレラン代理人： 反対質問はもうありません。

裁判長： 通訳は、証人に、完全に退席するように言って下さいますか？

（通訳は、日本語で、説明をくりかえした。証人トミシロ氏は、証言台と法廷から完全に退席した。）

マクレラン代理人： 少しお話しても宜しいでしょうか？ 裁判長。

裁判長： 結構です。（非公式の話し合いが行われた。）

裁判長： 代理人の要望により、ここで休憩を取りたいと思います。再開は、本日午後1時30分です。再開時刻の5分前には、この法廷に皆さんお集まり下さい。

陪審員の皆さん、皆さん同士や他の誰かと本件に関する話題を話したり、本件が完全に終了するまでになんらかの意見を形成したり、新聞で本件について読んだり、ラジオで何らかの意見を聞いたりするといったようなことをしないことは、皆さんに課せられた義務であると警告しておきます。

この時点で休憩します。

（裁判所は、1965年10月26日午前11時37分に休憩に入り、同日午後1時30分に、原告のツルコ・N・ロバーズを除く同じメンバーで再開した。）

裁判長： 始めて下さい。

ヘイグッド代理人： 裁判長、ロバーズさんは、昨日かなり体調が悪かったという私の発言を記録して頂けますでしょうか？ そして、今朝も体調が悪く、この午後も明らかに再び悪くなり、この期日には参加できないと決めたのです。私たちは彼女なしで続けるように準備しています。

裁判長： 異議はありますか？

マクレラン代理人： いいえ、裁判長。

裁判長： 結構です。

ヘイグッド代理人： 裁判所事務官のダルシイ・M・エリオット氏をお呼びしたいと思います。

裁判長： あなたの依頼者はここにいます、ヘイグッドさん。原告のロバーズさんは、法廷にいると記録して下さい。

ヘイグッド代理人： 彼女は病気で、この期日には戻ってこないと思っていました。

(原告側の証人ダルシイ・M・エリオットは、宣誓し、以下のように証言した。)

主尋問

ヘイグッド代理人による質問

Q： 名前を記録のために、言って下さい。

A： ダルシイ・M・エリオットです。

Q： 現在の地位は？

A： 裁判所の書記官代理です。

Q： 琉球列島合衆国民政府の裁判所、つまり、この裁判所ですか？

A： はい、そうです。

Q： あなたは、この裁判所の公的記録の管理者というわけですね？

A： そうです。

Q： エリオットさん、あなたが管理する、ある裁判記録を持ってきて下さるよう、お願いしました。つまり、民事のI-62事件、ツルコ・ロバーズ他対チョウヘイ・トミシロと極東建設サービス社、の裁判記録ということになります。あなたは、その裁判記録を持ってきましたか？

A： はい。

Q： その書類を参考にして、1964年7月20日に出された判決を見て下さい。

ヘイグッド代理人： この書類を参照のため、番号をつけて下さい。

裁判所書記官： 参照のため原告提出証拠1とします。

A： （フォルダーに入った書類を見せながら）持っています。

Q： そして、この原告提出証拠1と名づけられた書類と、あなたが持ってきた1964年7月20日付けの「判決」と名づけられた書類とを比べ、この2つに違いがあるかどうか、私に教えてもらえますか？

A： （調べてみて）違いはありません。

Q： 参照のため原告提出証拠1と名づけられた書類には、印章がありますか？

A： はい。

Q： それは、琉球列島合衆国民政府の裁判所の公印ですか？

A： そうです。

Q： その書類には署名がありますか。

A： あります。

Q： 誰の署名か、わかりますか？

A： はい。

Q： 誰の署名ですか？

A： ラッセル・L・スティーブンス判事のもので。

Q： 印章と署名は、あなたが持っているオリジナルの判決書に見られるものと同じですね？

A： そうです。

ヘイグッド代理人： 参照のための原告提出証拠1を証拠として採用するよう、お願いします。

マクレラン代理人： 異議ありません。

裁判長： 異議なく認められました。

（原告提出証拠1は、証拠として記録された。）

Q： さて、あなたが管理するファイルから抜き取った、ある書類を持ってくるようにお願いしましたが、その書類を持ってきていますか？

A： はい、そうしています。

Q： これらの書類は全部、あなたが公的に管理するものですね？

A： はい、そうです。

Q： これらの書類は、何のファイルから来ましたか？

A : ジョージ・ホール氏の宣誓証書です。

Q : つまり、ジョージ・ホール氏が、民事の I - 62 事件に関連して、執られた宣誓証書だというわけですね？

A : そうです。

Q : そして、その事件は、ツルコ・ロバーズとドナルド・ロバーズ対チョウヘイ・トミシロと極東建設サービス社、というわけですね？

A : その通りです。

ヘイグッド代理人 : これらの書類を、参照のために、名づけて下さい。もうこの証人について、質問することはありません。反対尋問をどうぞ。

反対尋問

Q : このファイル、民事の I - 62 事件で、「判決の執行」と書かれた書類を見つけることができるかどうか、ファイルを探してもらえますか？（証人がフォルダーの中を探し続けていると）エリオットさん、もしそういう書類があるとすれば、それは判決の日付の後に発見することができるはずですよ。

A : そういうことに、私はあまり慣れていないのです。

マクレラン代理人 : 民事の I - 62 事件の判決に関して、執行がなされなかったことや、その他の裁判所の命令がなかったという事実を、この法廷が当然の確知として受け入れるかですが。

裁判長 : 私は当然の確知として、まだ受け入れません。あなたは、それをどういう意味にとりますか？

ヘイグッド代理人 : 執行命令は出されなかったけれど、敗訴判決を受けた者は宣誓証書を提出するよう命令されたと思います。

裁判長 : 強制執行は命じられなかったということ、原告の代理人は認めました。

マクレラン代理人 : そうです、それが正しいのです。これは私たちの主張ですが、判決そのものの助けになることは何も示していないし、それはこの裁判所の命令ではありません。宣誓を取っても、判決命令の収集の助けになるということはないのです。

裁判長 : それでは、宣誓証書の目的は何だったのですか？

マクレラン代理人 : 明らかに情報を集めるのが目的ですが、判決を実行する裁判所命令まで、そこから直接、行かないものです。

裁判長： ヘイグッドさん、宣誓証書の、というか複数の宣誓証書を取った目的は何ですか？

ヘイグッド代理人： ジョージ・ホール氏とシーザー・マナクサ氏から宣誓証書を取った目的は、判決で敗訴したFECONの資産を見つけるためでした。ついでに言うと、資産は全然、見つからなかったのです。

裁判長： 分かりました。

マクレラン代理人： 宣誓証書を取ろうとすることは、その宣誓証書で何をしようとしているか、ということをよく指示していると思います。宣誓証書は通常の発見の手続きです。しかしながら、宣誓証書を取るというのは、それ自身、判決による（損害賠償金）を回収するための助けにならないというのが、私の考えです。

裁判長： ええと、原告の代理人は、宣誓証書を取ったのは、そういう目的だと言いました。そして、宣誓証書を取ったからには、何かが正反対であるとか、そう思ったのでしょうか。率直に言って、現時点において、ほかの目的を考えることは考えられません。なぜなら、原告勝訴の判決の後で、宣誓証書は取られたのです。そうですね？ 宣誓証書は原告勝訴の後で取られたのですよね？

マクレラン代理人： その通りです。

裁判長： そうです。

ヘイグッド代理人： はい、私は証拠として裁判に出すことには反対しません。

宣誓証書を取ることが、それを取る目的を適切に述べるのであれば——

裁判長： もしあなたがそれを読むとしたら、それに対して異議がありますか？

マクレラン代理人： まったくありません。

裁判長： ヘイグッドさん、読んで下さい。

ヘイグッド代理人： これには、USCAR民法法廷、訴訟記録 I - 62、原告ツルコとドナルド・ロバーズ対被告チョウヘイ・トミシロと極東建設サービス社、の題目がついています。これは「宣誓証言のお知らせ」という題目と、スタンプで「1965年6月25日にファイルされた」ということ、「裁判所書記、RR」があります。そして「原告が、ジョージ・W・ホール氏、シーザー・マナクサ氏、そして名前は分からないが、被告極東建設サービス社の資産について、個人的な知識を持っている人の宣誓証言を取るので、ご承知おきください。この宣誓証言は、沖縄の那覇にある合衆国民事裁判

所の書記ロバート・ラストファー氏の面前で、1965年6月30日午前10時から取られる。」

裁判長： それは原告勝訴のあと、かなり時間がたっていますね。そうではありませんか？

ヘイグッド代理人： そうですね。宣誓証言は1965年6月30日に取られています。もとの裁判で判決は1964年7月24日に出されています。だから裁判は1964年7月20日に始まっています。

裁判長： う～ん、これは私には――

ヘイグッド代理人： そして、この裁判所の判断は、USCAR控訴裁判所の承認を1965年3月にもらっています。原告がこの宣誓証言を取る目的は、「宣誓証言のお知らせ」に書いてあります。その言葉によれば、「被告極東建設サービス社の資産について、個人的な知識を持っている」人たちが対象となっています。

裁判長： それで十分でしょう。

マクレラン代理人： これ以上の反対質問はありません、裁判長。

裁判長： ヘイグッドさんは？

ヘイグッド代理人： ありません。

裁判長： ありがとうございます。

(証人エリオットは、許可されて、証人席から降りた。)

ヘイグッド代理人： 次に、ジョージ・ホール氏を証人として呼びたいと思います。廷吏は彼を法廷に呼んで下さい。

(ジョージ・ホールは、原告側の証人で、宣誓の上、以下のように証言した。)

主尋問

ヘイグッド代理人による質問

Q： あなたのお名前を述べて下さいますか？

A： ジョージ・ホールです。

裁判長： 証人の住所を知りたいですか？

Q： あなたのご住所は？

A： 住所は字牧湊454です。

裁判長： 字は何ですか？

証人： 字牧湊です。

Q： 浦添村の？

A： その通りです。

Q： 極東建設サービス社、別名FECONの名前をご存知ですか？

A： はい。

Q： その会社と関係があるとすればどのような関係にありますか？

A： 私はその会社の設立から関係しています。

Q： どのような立場でですか？

A： 株主と役員としてです。

Q： 1959年11月30日の時点で、またはその頃に、極東建設サービス社の株主であり役員であったのですか？

A： その通りです。

Q： 当時、どのような職に就いていましたか？

A： 副社長です。

Q： 分かりました。この会社が従事していた仕事、もしあれば業種は、どのようなものでしたか？

A： その会社は沖縄のアメリカ軍のための一般建設業に従事していました。

Q： 分かりました。仕事の上で、その会社は自動車を所有し運転する必要がありましたか？

A： はい。

Q： 1959年11月30日には、おおよそ何台が稼働していましたか？

A： 分かる限りでほしい20台から25台です。

Q： ほしい20台から25台。さて、FECONはカービー・ロバーズ氏の死に関わった1958年型シボレー・ピックアップトラックを所有していましたか？

A： はい。

ヘイグッド代理人： 原告提出証拠2、3、4、5を示して下さい。

速記官： 少しお待ち下さい。これらに個別に番号を記す必要がありますか？

ヘイグッド代理人： はい、1から7まで。

（書類は原告提出証拠1、2、3、4、5、6、7とそれぞれ識別のために番号が記される。）

Q： ホールさん、1959年11月30日に、FECONは、これらの自動車に対していわゆる責任を保証する保険の有効な保険証券を持っていましたか？

A : はい。

Q : カービィ・ロバーズ氏の死のきっかけとなったこの1958年型シボレー・ピックアップトラックは、保険証券で保険が掛けられた自動車のうちの1台でしたか？

A : そうでした。

Q : その保険証券は誰によって作成されましたか？

A : 質問をもう一度お願いできますか？

Q : 私たちが話している1958年型シボレー・ピックアップトラックの保険証券は誰が書きましたか？

A : 東京のポール・オーレル保険代理店です。

Q : 誰ですか？

A : ポール・オーレル氏です。彼は保険外交員でした。社名は分かりません。

Q : 1965年6月30日にまたはその頃に、召喚されてこの裁判所の速記官の面前で証言録取書がとられたことを覚えていますか？

A : はい。

Q : あなたはその時にある文書をあなたの業務記録から持参することを求められませんでしたか？

A : はい、求められました。

ヘイグッド代理人：（マクレラン代理人に文書を手渡して）あなたは私があると2、3の質問をする間にこれらを見たいかもしれません（原告提出証拠6を速記官に手渡す）。

速記官： この番号を変更したいのですか？

Q : ホールさん、あなたは1年少し前にロバーズ氏の妻から極東建設サービス社に訴訟が提起されたことを覚えていませんか？

A : そう思います、はい。

Q : その訴訟に出廷し証言しましたか？

A : はい。

Q : 判決の算定額は6万ドルでしたか？

A : そうだったと思います。

Q : さて、今年6月30日のこの証言録取書がとられた際に議論された一般的な問題は何か？

A : どのように答えたらよいか分かりません。あなたは私に保険証券と様々な不動産と自動車について質問しました。分かりません。

- Q： 言い換えると、私は資産を発見する目的で法的質問を行った、ということ
で間違いないですか？
- A： それと、この保険証券の存在です。
- Q： 原告提出証拠2と識別のために記された文書を示します。この文書が分
かりますか？
- A： 分かります。
- Q： 証言録取の際に持参した文書の1つですか？
- A： その通りです。
- Q： その文書はどこにありましたか？
- A： FECONの記録にあった、そして現在私の所持する保険ファイルにあり
ました。
- Q： この文書ファイルは、FECONにより通常業務中に保管されている業務
記録の1つでしたか？
- A： その通りです。
- Q： これが入手された文書ファイルは、証言録取の際にあなたが持参した時
に、あなたが管理していたのですか？
- A： その通りです。
- Q： この文書にある保険証券番号を意味する番号に注意して、この番号を読
んで下さい。
- A： 保険証券番号——
- マクレラン代理人： 私たちは、証拠としてまだ認められていない文書からの
あらゆることに関するこの証人による証言に反対します。
- ヘイグッド代理人： よろしい。質問を撤回します。
- Q： 原告提出証拠3と識別のために記された文書を示します。この文書が分
かりますか？
- A： 分かります。これはそれと同じ時に持参した別の文書です。
- Q： これがあった同じFECONの保険証券ファイルのものですか？
- A： その通りです。
- Q： 第1文書についてあなたが話したことすべては、この文書にもあてはま
りますか、あなたの管理下にあることについて？
- A： はい、あてはまります。
- Q： FECONの通常業務中に保管されている業務記録であることについても
同様ですか？

A : その通りです。

Q : 原告提出証拠4と識別のために記された文書を示します。この文書が分かりますか？

A : はい。

Q : この文書もあなたのファイルにありましたか？

A : はい、ありました。

Q : それは通常、業務中に保管されていた記録ですか？

A : その通りです。

Q : 原告提出証拠5と識別のために記された文書を示します。この文書が分かりますか？

A : それは同じファイルにありました。

Q : 7番と識別のために記された原告提出証拠について、同じ質問をします

——
裁判長 : 7番？

ヘイグッド代理人 : はい。7番です。提出証拠6は何か別のものでした。

A : はい。これは私のファイルにありました。

ヘイグッド代理人 : 裁判所の許可を得て、そして被告代理人の異議がなければ、裁判所速記官に提出証拠番号を6に変更していただきたいと思います。適切な順序を保つだけのために。

マクレラン代理人 : 異議ありません。

裁判長 : よろしい。そのようにして差し支えありません。

ヘイグッド代理人 : 同時に、提出証拠6と記された文書は7に変更して下さい。

裁判長 : よろしい。

(要求された変更が証拠物件に加えられる。)

Q : 原告提出証拠6と識別のために記された文書を示します。それはFECONにより通常業務中に保管される業務報告ですか？

A : はい、その通りです。

Q : さて、私があなたに示したこれらの文書のすべては、ホールさん、あなたは自分の保険ファイルにあったと言いました。その保険ファイルはカービー・ロバーズ氏を殺害した自動車の責任保険の適用範囲に関する情報を含みますか？

A：（聴取不能）

裁判長： 何と言いましたか。代理人、すみませんが質問を聞きとれませんでした。もう一度質問していただけますか？

Q： あなたはこれらの文書がFECONによりその通常業務中に保管される保険ファイルにあったと述べました。質問は、言い換えますと、これらの文書は、カービィ・ロバーズ氏を殺害した1958年型ピックアップトラックにかけられた保険の適用範囲に関連しますか？

A： 私の知る限りでは、そうです。

ヘイグッド代理人： 私たちは、原告提出証拠２、３、４、５、６と識別のために記された文書を証拠として申請します。

マクレラン代理人： 証人にいくつか質問して差支えないですか、裁判長？

裁判長： はい。

被告代理人による限定的反対尋問

マクレラン代理人による質問

Q： ホールさん、これらにはたくさんの番号があります。

裁判長： あなたは２、３、４と５を申請しましたか？

ヘイグッド代理人： そして６。２、３、４、５、６です。

裁判長： そして６。

Q： ホールさん、原告提出証拠２と識別のために記されたものをご覧いただけますか。そしてそれを見た後に、その紙に1958年型ピックアップトラックに関するものを何でも、私に話していただけますか？

A： ありません。

Q： ありがとうございます。さて、提出証拠３について、ご覧いただき、私たちにその文書に1958年型ピックアップトラックに関するものが何かあるか、私に話していただけますか？

A： その紙にシボレー・ピックアップトラックに関するものは何もありません。

Q： そして提出証拠４、この冊子について、これがFECONによって受領されたとすれば、いつ受領されたか思い出せますか？

A： それが受領された時は分かりません。それはこれらの他の紙を入手するためにファイルを開けた時にあったのです。

Q： さて、ホールさん、これはオリジナルではなくカーボンコピーであると

いう印象をあなたに与えますか？

裁判長： 原告提出証拠、識別番号4のことを言っているのですか？

マクレラン代理人： 提出証拠4です、はい。

A： いいえ、そのことは分かりませんでした、なぜなら——

Q： それをご覧になって、それがオリジナルというよりもカーボンコピーに見えますか？

A： それはカーボンコピーです。

Q： オリジナルがどこにあるかご存知ですか？

A： ひょっとしたらオーレルの代理店です。

裁判長： ひょっとしたらオーレルの代理店？

証人： はい、これはオーレル仲介保険代理店によって作成されました。

裁判長： オーレルはどう綴りますか？

証人： A-u-r-e-l-l。

A： (続けて) このオリジナルがどこにあるか分かりません。

Q： オリジナルをこれまでに見たことはありますか？

A： いいえ。

Q： さて、ホールさん、提出証拠4と記されたこの文書と被告AFIAの間に何か関係はありますか？

A： どのように答えてよいか分かりません。

Q： それでは、あなたはその文書のどこかにAFIAの名を見出しますか？

A： (チェックして) いいえ、見つかりません。

Q： あなたの知る限り、AFIAはこれと何の関係もない——あなたの知る限りは？

A： 私の知る限り、関係ありません。

Q： この文書がオーレル氏の東京の仲介会社から直接届いたかどうか分かりますか？

A： それが東京のオーレル氏の会社から直接届いたかどうか、私に分かるか、でしょうか？

Q： はい。彼の事務所から直接受領されましたか。分かりますか？

A： オーレル氏の事務所から直接届いたかどうか、または(聴取不能)から届いたかどうかは知りません。

裁判長： または、介して届いたかどうかは？

A： または誰か他の人の手を経てここに届いたかどうかは。

Q： オーレル氏は東京に代理店を持っているかどうか分かりますか？

A： 分かりません。

Q： オーレル氏が彼の事務所のメンバーと提出証拠4について、何か議論したことはありますか？

A： いいえ。

Q： 「ホーム保険会社」の名前はこの文書のどこかにありますか？

A： いいえ、表紙になれば。

Q： ご覧いただけますか？

A： いいえ、ありません。

Q： さて、提出証拠5について、ホーム保険会社の名をその文書のどこかに見出しますか？

A： はい。

Q： どこにそれを見出しますか？

A： （読む）ホーム保険会社の保険証券番号の下で当然支払われるべき支払い請求——

Q： うん。さて、そこに記されている日付をご覧ください、またこちら、6番の日付をご覧ください。そこで、これら2つを見て、2つの文書の間にどのような関係があるか、または関係があるかを、私たちに話すことはできますか？

A： アメリカ外国保険協会の日付は1959年5月31日の申告付きで6月1日です。お答えになっていますか？

Q： 2つの間に何らかの関連はありますか、あなたの分かる限りで？

A： 一方は他方のコピーであることは極めて明白です。

Q： 他方のコピー？

A： ここにある情報（示す）はここ（示す）に繰り返されています。

裁判長： 5と6のことを言っているのですか？

マクレラン代理人： はい。証人は6の情報は提出証拠5で繰り返されていると陳述しました。

Q： 本当ですか、ホールさん？

A： 少々お待ち下さい。はい。6番は繰り返しです。6番と5番は同一物です。この日付はここから写されたものです。

Q： しかし発行機関は違うのでは？ 2つの異なる機関ではないのですか？

A： 申告は2つの異なる場所からのものです。

マクレラン代理人： なるほど。私たちはここで、原告提出証拠2、3、4、5と6の提出について、これらの事件に今までのところでは関連性があるように見えないことを根拠に、異議を申し立てます。

ヘイグッド代理人： 裁判長、証人はこれらの文書を、カービィ・ロバーズ氏を殺害した車両にかかる保険に関するものであると明らかにしました。私は、これらはこの事件に関係すると考えます。被告は、これらの文書が証拠採用されるまで、これらの文書からどのような情報も読み上げることに對して異議を唱えました。これらの文書を証拠に組み入れるために、そしてその文書の関連性を証明するために、そこから何かを読むことが必要でしょう。

裁判長： それでは――

ヘイグッド代理人： 私たちはこれらの文書の関連性と重要性は明らかにされ、FECONの通常業務中に保管される業務記録としての許容性もまた明らかにされたと感じています。

マクレラン代理人： 裁判長、車両Aの保険補償範囲を示すことは、車両Bの補償範囲の存在を証明するものではないということをお分かりいただきたい。それこそが、正に私たちが有する問題です。

ヘイグッド代理人： 私はこれらの文書をつなぐことができます、裁判長、後で提出を申し出る他の証拠と、そしてまた、後に引用するであろうこの証人の口頭の証言によっても。

補充質問

Q： ホールさん、FECONはまだ存在しますか？

A： 法的に消滅してはいませんが、営業する会社としては存在していません。

Q： 社員は何人いますか。現在は？

A： 一人もいません、あなたが管理人を従業員と呼びたくない限りは。

Q： 誰が管理人ですか？

A： 沖縄の庭師一人です。

Q： 誰がFECONの記録を保管していますか？

A： 私です。

Q： あなたが？

A： はい。

Q： ヘイグッドさんより先ほど見せられた文書について、あなたは事故に関

わった1958年型ピックアップトラックに関係すると陳述しました。それは正しいですか？

A： ええと、具体的にはどうか分かりません。

Q： あなたはこれらの文書が1958年型ピックアップトラックに関係すると、あなたの知る限りで陳述したと思います。

A： そうです、はい。

Q： なぜそのように言うのですか？

A： 「シボレー・ピックアップ」がそこにあっただかなかったか分かりませんが、すべての私たちの車両に保険をかけており、私の知る限りで、何が含まれていたのかを正確に示すリストが手元にないからです。

裁判長： 私は採用する——

マクレラン代理人： 裁判所規則により、裁判所がこれらの文書を読み上げることを要求します。文書は証拠採用される前に吟味されるべきです。

ヘイグッド代理人： 私が読み上げることに代理人が異議を申し立てた各文書に保険証券番号を見出すでしょう。同一の保険証券番号は各文書に出てくるでしょう。そしてその保険証券番号が、原告の主張にある車両にかけられた保険証券のものであります。それは780A-2115です。

裁判長： 保険証券番号780A-2115はこれらすべての文書にあり、訴状で言及される保険証券番号です。あなたの異議申し立てはそれゆえ認められず、文書は証拠採用されます。

（原告提出証拠2、3、4、5、6は証拠として番号を付けられた。）

主尋問（再開）

ヘイグッド代理人による質問（継続）

Q： ホールさん、あなたは知っていますか、どこで——

ヘイグッド代理人： 取り消して下さい。

Q： これらの文書は保険証券番号780A-2115に言及しています。正しいですか？

A： その通りです。

Q： 保険証券はどこにあるか分かりますか？

A： いいえ、分かりません。

Q： それを探したことはありますか？

A： はい、探したことがあります。

- Q : あなたのファイルの中を探したのですか？
- A : はい、そして思い当たる他のあらゆる場所を。
- Q : さて、原告提出証拠2を示します。冒頭の言葉を読み上げて下さい。
- A : ここで？
- Q : はい。
- A : (読み上げる)「車両の追加」
- 裁判長 : 「追加の車両」？
- 証人 : 「車両の追加」
- Q : 目を通して、あなた自身の言葉で、その文書が表しているように見えることを話して下さい。
- A : それは、ここに言及される保険証券への追加だと思います。
- Q : どのような保険証券が言及されていますか？
- A : 780A-2115です。21番と22番に線が書き足されています。それは何らかの理由で保険証券の後に保険がかけられた車両2台で、この時に追加されています。
- Q : その文書には保険会社の名が書かれていますか？
- A : (読み上げる)「ホーム保険会社、ニューヨーク」。
- Q : 左上の隅の上に、印章とエンブレムがあります。そこに何かイニシャルと言葉がありますか？
- A : はい。(読み上げる) AFIA。
- Q : 「AFIA」の周りにより小さな文字がありますか？
- A : はい。(読み上げる) その小さな印章に「アメリカ外国保険協会」とあります。
- Q : この文書は署名されていますか。何か署名がありますか？
- A : ここに署名があります。
- Q : その署名を判読できますか？
- A : できません。
- Q : この保険証券は誰に向けて発行されたものだと言っていますか？
- A : FECON、極東建設サービス社に宛てて発行されています。
- Q : この文書を吟味することにより、責任限度に何らかの言及を見出すことはできますか？
- A : いいえ。
- Q : その文書の右上隅に注目して下さい。

A： はい。（読み上げる）「責任限度、100/300/25ドル」。

裁判長： 繰り返していただけますか。

証人： ドルのサイン、100、斜線、300、斜線、25。

裁判長： 分かりました。

Q： さて、ホールさん、FECONの所有していたこの車両にかけられていたあなたの保険の責任限度を知っていましたか？

A： 私が知っていたとは、いつのことですか？

Q： 1959年11月30日です。

A： いいえ、私は知りませんでした。その時に限度額を正確に意識していたとは思いません。

Q： 分かりました。この責任限度は、100スラッシュ、300スラッシュ、25の数字を示しています。そのことは、その保険証券の責任限度額が100ドルであったことを意味していますか？

A： いいえ。

Q： それはどのような意味ですか？

A： 私の知る限りで、それは一人につき100ドル、すなわち10万ドルの対人責任。または300ドル——を意味します。

裁判長： 300ドル？

A： いいえ、30万ドルです、一つの事故あたり。それはこの保険証券の上限です。2万5千ドルは対物責任です。

Q： 原告提出証拠3をお示しします。冒頭に見える言葉を読んで下さい。

A： （読む）アメリカ外国保険協会。

Q： それでは、左上隅にある言葉と番号を読んでいただけますか？

A： （読む）請求書番号003119。

Q： 誰に宛てて送付されましたか？

A： 極東建設サービス社へ。

Q： 保険証券番号はその請求書のどこかに見えますか？

A： （読む）780A-2215。

Q： 保険会社名もそこに見えますか？

A： はい。

Q： 保険会社の名称は何ですか？

A： ホーム保険会社。

Q： その保険証券に表示されている責任限度は？

A : この保険証券と同じです。私たちがチェックした最後の標目にあった送り状記載のものと同じです。

Q : それは数字100/300/25ですか？

A : その通りです。

Q : インボイスにある保険証券の保険の種類に関する記載はありますか？

A : (読む)「危険保険：法的責任 C-o-m-p—」

裁判長 : c-o-m-pですか？

証人 : その通りです。

A : (続けて)「そしてCollision」、スペルミスですが。

Q : その請求書の請求額はいくらですか、ドルで？

A : 1213ドル62セントです。1年あたり。

Q : 1年あたりの何ですか？

A : 1年あたりの保険料です。

Q : 「保険料」の語がありますか？

A : はい。

Q : 数字もありますか？

A : はい、あります。

Q : その文書の右下隅に署名がありますか？

A : あります。

Q : その署名を読めますか？

A : いいえ。

Q : 署名のすぐ下に印字されている語はありますか？

A : はい、「アメリカ外国保険協会」と書いてあります。

Q : それでは、実質的に、これはアメリカ外国保険協会の保険証券番号780A-2215の保険料の請求書ですか？

A : はい。

Q : それはあなたの会社によって何日に受領されましたか？

A : それは1959年4月22日に投函されました、しかし受領日については分かりません。

Q : 保険の期間は、この保険証券に表示されていますか？

A : はい。

Q : 期間はいつですか？

A : 1959年4月1日から1960年4月1日までです。

Q： その期間はカービー・ロバーズ氏が殺された日を含みますか？

A： はい。

Q： 原告提出証拠4をお示しします。最後の頁を開けて下さい。そのページに保険証券780A-2215への言及はありますか？

A： はい。（指差して）それは右上隅にあります。

Q： その保険証券に、かけられている財産に関する記述はありますか？

A： はい。

Q： ありますか。読んでいただけますか？

A： （読む）1955年型ポンティアック4ドアセダン、1959年型ビューイック4ドアセダン、18の車両、セダン2台、ダンプトラック、貨物トラック、ピックアップ、トレーラーなどを含む。計20台の車両と記録されています。

Q： それでは、ホールさん、あなたの知る限りで、カービー・ロバーズ氏を殺害した1958年型シボレー・ピックアップトラックは、その小冊子に記載されている、それらの車両に含まれていましたか？

A： 私の知る限り、含まれていました。

裁判長： あなたは1959年型シボレー・ピックアップトラックと言いましたか？

ヘイグッド代理人： 1958年です。

Q： それでは、ホールさん、原告提出証拠5を示します。その一番上にある言葉を読んで下さい。

A： （読む）アメリカ外国保険協会。

Q： 誰に宛てて——。「計算書」の語はどこかにありますか？

A： あります。

Q： その計算書は誰に宛てられたものですか？

A： なんですか？

Q： その計算書は誰に宛てられたものですか？

A： 極東建設サービス社です。

Q： 住所はありますか？

A： 沖縄コザ私書箱57。

Q： その計算書の文言に保険証券番号780A-2215は表示されていますか？

A： はい。

Q： 「説明」の語をご覧いただき、そのすぐ下の語をお読み下さい。

A： （読む）説明。ホーム保険会社の下に支払うべき保険料。そして更に、

24、68、11の、異なる保険証券が列記されています。

Q : 保険証券番号780A-2215はその中に含まれていますか？

A : はい。

Q : 証拠物件の一番下に見える文言を読んで下さい。

A : (読む) すべての保険料は、アメリカ外国保険協会に支払う。

Q : それでは、原告の提出証拠6を示します。その内容を述べて下さい。

A : 私の知る限り、それは計算書で、11の保険証券をまた列記しています。

Q : 誰によって作成されたのですか？

A : この計算書は東京のオーレル保険代理店によって作成されました。

Q : その文書の下部に見える語はありますか？

A : それは、「アメリカ外国保険協会に支払う小切手を作成し、そしてそれをニューヨーク州、ニューヨーク、ウィリアム通り161番地、アメリカ外国保険協会へ郵送して下さい」と記されています。

Q : この計算書の上から3つ目の項目をご覧いただき、その記述を読んで下さい。

A : (読む) 証書番号780A-2215、自動車保険証券、1,213.62ドル。

Q : 保険料に支払われる金額はいくらですか？

A : 1,213.62ドルです。

Q : ありがとうございます、ホールさん。あなたは、1959年11月30日、カービー・ロバーズ氏が殺された時、FECONの経営に従事していましたね？

A : はい。

Q : 誰がその報告書を作成したのですか？

A : 誰が作成したのか分かりませんが、しかし私たちはすぐに作成しました。

Q : アメリカ外国保険協会かホーム保険会社の代表者と、ロバーズ氏の死をもたらした事故に関するこの報告書の後、会合か議論を行いましたか？

A : あなたが会議と呼ぶものは行いませんでした。

裁判長 : もう一度答えていただけますか？

A : いいえ、このことについて話すために彼らの事務所へ行ったことは一度もありません。

Q : 彼らの事務所の誰かが、あなたと話すために来ませんでしたか？

A : 彼らは私に接触しました。はい。

Q : 「彼ら」とは、誰を意味していますか？

A : AFIAに当時誰がいたのか今は覚えていません、しかし当時はその会社

に誰が雇われていたかは知っていました。

Q： ベン・アラゴン（発音通り）という名前に何か心当たりはありますか？

A： はい、彼は当時AFIAの一員でした。

Q： 彼は、実のところ、経営者だったのではないですか？

A： 私は彼が経営者であったかどうかを語るほどその会社に通じておりません。

Q： ペーター・フォルナカ（発音通り）という名前に何か心当たりはありますか？

A： 私はペーター・フォルナカ（発音通り）を知っていました。

Q： ペーター・フォルナカ（発音通り）はAFIAとどのような関係にありましたか？

A： 定かではありません。

裁判長： どのような関係でしたか？

証人： 定かではありません。

A： 彼の会社との関係は分かりません。

Q： しかし、彼が会社に関与していたかどうかはご存知ですよね？

A： 彼は関与していました。

Q： これはカービィ・ロバーズ氏の死の直後ですね？

A： 彼は関与していました。

Q： それでは、原告提出証拠7を示します。（被告代理人に示した後）右下隅に見える署名をご覧下さい。その署名がお分かりですか？

A： いいえ。

Q： 一番上の署名はいかがですか？

A：（指す）この署名は分かりません。（指す）これは私の署名です。

Q： どちらがあなたの署名ですか？

A： 右下隅の右上です。2つの署名があります。下のものは分かりません。次のものは私のものです。

Q： 「保険会社」と記される線の上の署名は分かりませんか？

A： 分かりません。

Q： しかしこの文書のあなたの署名は分かるのですか？

A： はい。

Q： それでは、その文書をご覧いただき、極東建設サービス社、ホーム保険会社、保険証券番号780A-2215の文字が、この文書のどこかに記されている

るかどうかご確認いただけますか？

A： 記されています。

Q： 文書の冒頭に記されている文字は何ですか？

A： (読む) 非放棄約定。

Q： この文書はあなた自身かあなたの代理人と誰か他の人との間の合意書の写しに思われますか？

A： そのような合意書に見えます。

Q： その文書を注意深く吟味して下さい。その文書は、カービィ・ロバーズ氏の死をもたらした事故に言及していますか？

A： その事故の日に言及しています。

Q： その日はいつですか？

A： 1959年11月30日午前1時30分です。

Q： その文書に何か車両に関する記載はありますか？

A： それは車両を記載しています。1958年型シボレー1.5トン・ピックアップトラック、車台番号F-10295B、プレートNo.PC-5049です。それは0.5トン・ピックアップでしょう。1.5トン・ピックアップはありませんので。

ハイグッド代理人： 私たちは原告提出証拠7を証拠申請します。

マクレラン代理人： 異議なし。(原告提出証拠7が証拠採用された。)

Q： ホールさん、この文書の冒頭から全体をゆっくり読んでいただけますか。

それを陪審に読んで下さい。分かる署名は読み、読めない署名は「判読し難い署名」と言って下さい。刻印された証拠物件番号は無視して結構です。

裁判長： それをゆっくり読み、声を大きくしていただけますか、ホールさん。

証人： 承知しました。

A： この文書は以下のように記載されています。(読む) 非放棄約定：被保険者：極東建設サービス社——保険証券番号：ホーム保険会社、780A-2215。車両：1958年型シボレー1.5トン、ピックアップトラック。車台番号F-10295B、プレートNo.PC-5049。事故日：1959年11月30日午前1時30分。事故の場所：ルート5、アウェアミドウズ・ショッピングセンター付近。(読む、続く) ここに署名された上記名称の被保険者と保険会社により、かつ両者の間において、以下の旨を合意するものとする。上述の保険会社、その代理店またはその代理人により、上記事故との関係でなされたあらゆることは、原因の調査またはそれに関する他のことを含めて、その保険会社により発行された保険証券の契約条件下におけるそれらのいかな

る権利も、放棄し、無効にし、剥奪し、または変更しないものとする。保険会社は、その保険証券は保険合意条項11条により責任を負わないことを主張する。この合意は、両当事者相互の便宜のために、彼らの権利を侵害することなく事故の調査を許容するため、この文書で交わされる。私たちは自ら署名する、沖縄にて、1960年1月8日。証人の署名、カエサル・マナクサスの署名。他の証人の署名は分かりません、判読できません。

Q： ホールさん、あなたがそれを作成したのですか？

A： 私は作成しませんでしたし、誰が作成したのか分かりません。たぶん保険代理店が作成しました。

Q： ホールさん、カービィ・ロバーズ氏が殺された時、あなたは、FECONが合衆国政府機関のための建設業務に従事していたと述べましたよね？

A： その通りです。

Q： この建設業務の過程で、あなたの車両が多くくの軍事基地に出入りする必要がありましたね？

A： その通りです。

Q： それでは、軍隊は、これらの車両が基地に出入りするのを許容するため、保険に何か要件を課していましたか？

A： はい。

Q： それらの要件はどのようなものでしたか？

A： 正確には分かりません。思い出せません。それらが過去数年のある時点で変わったと記憶しています。

Q： あなたの証言を今はその要件に限定して下さい、あなたの知る限りで、1959年11月30日かその頃に存在した内容に。

A： それらはPLPD、個人賠償責任と物的損害により補償されなければなりませんでした。

Q： あなたの会社がこの保険証券番号780A-2215を購入した時、あなたは公共賠償責任保険の保険証券を購入していたというのがあなたの理解でしたか？

A： 間違いありません、この保険証券の購入に私は何ら関与していませんでしたが。

Q： 誰によってそれは購入されたのですか？

A： スチュワート氏かチェールズ・ピーターソン氏のいずれかです。どちらかは分かりません、実のところ。

Q： スチュワート氏とピーターソン氏とはどなたですか？

A： 私の共同経営者でした。私たちはその建設会社の共同経営者だったので、私たち3名が。

Q： スチュワート氏の名は何ですか？

A： トム・スチュワート。

Q： それでは、トム・スチュワートと、チャールズ・ピーターソンとおっしゃいましたか——

A： (うなづく)

Q： ——そしてあなたは、FECONの共同経営者または投資者だったのですか？

A： はい。

Q： トム・スチュワート氏は現在どこにいますか？

A： トム・スチュワート氏とピーターソン氏は、ともに亡くなっています。

Q： とともに亡くなっているのですか？

A： はい。

Q： それぞれの死亡日を教えてくださいませんか？

A： 正確には分かりません。およそ、1962年11月20日、21日頃にトム・スチュワート氏は亡くなりました。ピーターソン氏は、2年前、1964年のイースターの頃に亡くなりました。

Q： しかし彼らはカービィ・ロバーズ氏が殺された時にはともに生きていたのですか？

A： その通りです。

Q： ホーム保険会社かアメリカ外国保険協会、またはこのオーレル保険代理店の代理人は、あなた、スチュワート氏またはピーターソン氏に対して、あなたの前で、保険証券2215で販売された自動車保険補償の性質について、これまでに言及しましたか？

A： いいえ。

Q： 彼らは、あなた、スチュワート氏またはピーターソン氏に、あなたの前で、これは賠償責任保険の保険証券ではないと述べましたか？

マクレラン代理人： 異議あり。誘導です。結論を求めており、かつ伝聞です。

ヘイグッド代理人： 異議は個別に述べていただけますか？

裁判長： 質問を繰り返していただけますか？

Q： 誰かがあなたの方にかつて述べたことはありますか——あなたにこの保険

証券を販売したこれらの保険代理店からの誰かが、あなた、ピーターソン氏またはスチュワート氏に対して、あなたの前で、この保険証券番号780A-2215が賠償責任保険証券ではないと、述べたことはありますか？

マクレラン代理人： なお異議あり。

裁判長： 異議は認めません。

A： いいえ。

Q： あなたの自動車、とりわけ保険証券2215で補償される自動車は、賠償責任保険の保険証券で補償されるということが、あなたの理解でしたか？

A： はい。

Q： 前の質問で言及された保険代理店のいずれかが、あなた、スチュワート氏またはピーターソン氏に対して、あなたの前で、保険会社がこの保険証券、保険証券780A-2215にもとづいて支払う前に、あなたが最初に請求金額を支払わなければならない旨を、告知しましたか？

A： いいえ。

Q： このことが保険証券の条件に含まれているというのがあなたの理解でしたか？

A： 私はその保険証券について、ほとんど知りませんでした。しかしそのように作用したとは考えません。

Q： さて、私は、ホーム保険会社の自動車保険証券番号780A-2215の、現在の所在場所を知っているかどうか、あなたに以前にお尋ねしました。そのことを再びお尋ねします。それは今どこにあるか知っていますか？

A： いいえ、知りません。

Q： あなたの記憶の限りで、それを見たことを思い出せますか？

A： いいえ。私に、この中の、それまたは他の保険証券を確認する機会はまったくありませんでした。私は、それらがファイルにあることを知っていました。すなわち、私の知る限り、それらはここにあるこれらの文書とファイルにありました。しかし、私にはそれらを点検すべき理由がありませんでした。私は、誰が保管代理人であるかを知っていたので、私たちは彼らに連絡を取りました。

Q： ところで、トム・スチュワート氏は、会社でどのような立場にありましたか？

A： 彼は――

Q： ――すなわち、彼のFECONにおける1959年11月30日から、彼の逝去日

までの立場はどのようなものでしたか？

A： 彼は会社の社長でした。

Q： 彼は会社の社長だった。彼はこれらの文書が得られたこの保険ファイルにアクセスできましたか？

A： はい。

Q： スチュワート氏にとって、これらの文書が得られた保険ファイルから、ホーム保険証券番号780A-2215を取り出すことは可能だったでしょうか？

マクレラン代理人： 異議あり。それは結論を求めており、誰かに他の誰かの心を読むことを要求するものです。いかなることも可能だと言えるでしょうが、これはここでのいかなる論点にも決して関連しません。

ヘイグッド代理人： それは結論を求めるものではありません、事実を述べているだけです——彼にとって、それをファイルから取り出すことが可能だったかどうかについての。

マクレラン代理人： それはそのファイルから、誰でも取り出すことが可能だったであろうと、代理人は推測するでしょう。

裁判長： それはどうでしょう。それは少し拡大では——

マクレラン代理人： ついでに言えば、代理人を含めて可能です。

裁判長： それはあなたが要求したことよりも、ずっと拡大されています。それで満足するのですか？

ヘイグッド代理人： 私はいかなる取り決めに参加しても構いません。公判前会議で、代理人が、彼はいかなる取り決めに参加する用意がないと言ったことを、あなたは思い出すでしょう。私は、——

裁判長： （口を挟んで）そのことは措いて、会社の共同経営者および副社長として、この証人は質問に答える資格があります。私は異議を認めません。

A： ファイルは彼が入手できました。

Q： それでは、1959年11月からトム・スチュワート氏の逝去の日までの期間に、トム・スチュワート氏に法律顧問が、もしいたのであれば、誰でしたか？

A： 私の知る限りでは、ロイ・ナカダ氏でした。

Q： ロイ・K・ナカダ氏という沖縄の弁護士ですか？

A： 私は彼のミドルネームのイニシャルを知りませんが、ロイ・ナカダ氏です。

Q： 彼は沖縄で開業する弁護士ですか？

A： その通りです。

Q： そして彼はスチュワート氏の法律顧問を1959年11月から彼の逝去日まで務めたのですか？

A： 私には、彼らが何の業務をしていたのか、彼らがその期間にどのような業務関係にあったのか分かりませんが、ロイはトムが頼っていた人物の一人でした。

Q： 分かりました。ロイ・ナカダ氏はこの期間、FECONの弁護士・代理人でしたか？

A： そうだったと思います。

Q： ところで、あなたの知るところ、ロイ・K・ナカダ氏は、この事件の被告側代理人のハワード・マクレラン氏のパートナーだったのではありませんか？

マクレラン代理人： 異議あり。その質問は結論を求めるものです。

裁判長： はい、それは結論を求めるものですが、その会社はよく知られているので、この証人は意見を述べることができます。とりわけ、彼はロイ・ナカダ氏がこの会社を代理していたと述べたのですから。そこで——その質問をもう一度繰り返していただけますか？

Q： あなたの知識によるところ、ロイ・K・ナカダ氏とハワード・マクレラン氏は、法実務のパートナーだったのではありませんか？

A： 彼らは同じ事務所にいます。私には彼らの地位は分かりません。彼らはパートナーかもしれませんが、私には分かりません。

Q： ところで、ホールさん、ツルコ・ロバーズおよびドナルド・ロバーズ対チョーヘイ・トミシロおよび極東建設サービス社の訴訟の訴状が、いつあなたに届いたのかを、あなたは思い出せますか？

A： いいえ、分かりません。あなたは私がいつ訴状を受け取ったのかを思い出せるか、お尋ねされましたが、私はいつなのか思い出せません。

Q： そうだとすると、いずれにせよ、私がたった今述べた訴訟の召喚状と訴状を受領した時、あなたは何をしましたか？

A： 私がAFIAに連絡したのか、彼らが私に連絡したのか、今は思い出せません。なぜなら、それに関する詳細を思い出すには、時間が経ち過ぎているからです。しかし、私たちは互いに連絡をとりあっていました。

Q： それでは、あなたがAFIAの代理人と接触したか、彼らがあなたに接触したのですね、この訴訟に関して？

- A : はい。
- Q : あなたは、この訴訟でFECONを弁護する代理人のサービスを得ましたか？
- A : いいえ。
- Q : 実際は、FECONに対する訴訟で代理人が弁護しましたか？
- A : はい。
- Q : 代理人は誰でしたか？
- A : マクレラン代理人でした。
- Q : 誰が彼を選任したのですか？
- A : あなたは、彼がFECONに対する訴訟で弁護したかと尋ねましたが、私の知る限り、AFIAが選任しました。しかし、よく分かりません。
- Q : あなたか、FECONを代理する誰か他の人が、マクレラン氏にその訴訟の弁護のための代理人費用を支払ったのですか？
- A : 私は支払っていませんし、支払った人は分かりません。
- Q : その訴訟に関してAFIAの人があなたに連絡した時、またあなたがAFIAと会合した時、誰が代理人費用を支払うかについて何か議論はありましたか？
- A : いいえ、私は関知しません。会社の誰か他の人がそれについて話したのかどうか、私には分かりません。
- Q : しかし、AFIAはあなたにハワード・マクレラン氏が事件を弁護する代理人になるだろうと知らせましたね。違いますか？
- A : はい。
- Q : そして代理人費用はあなたによって支払われていないと、あなたは言われましたね？
- A : その通りです。
- Q : ホールさん、なぜあなたはマクレラン氏に、あなたに代わって本件の抗弁をすることを許容したのですか？ 何か理由があったのですか？
- A : 理由——私はそのようなことについて、保険会社と協力すべきで、彼らも私のために——私のためではなくFECONのために行動すべきであると、思っていましたし、今もなお思っています。
- Q : どのようにしてあなたはそう思ったのですか。彼らがあなたに話したのですか？
- A : いいえ、彼らは私に話しませんでした。わずかながら私は保険について

知っていました。それは私の考えでした。誰も私のところに来て、そのことを話していません。誰もこの事件で私にそのことを今まで話していません。

Q： しかしあなたは保険会社と協力することを求められていたと承知していたのですか？

A： 私は信じています。今までみな——（聴取不能）

裁判長： 何とおっしゃいましたか、もう一度お願いできますか？ もう少し大きな声でお話いただけますか？

A： 私は、賠償責任保険証券に関わりを持った人はみな、もしそれを読めば、保険証券で概略を記された、これらのことに協力しなければならないと分かるだろうと信じます。

Q： AFIAの誰か、またはホーム保険会社の誰か代表者は、保険証券の契約条件について、訴訟、召喚およびそのようなことに伴う訴状の転送の際における、あなたの義務と協力に関して、これまでにあなたと何か議論したことはありますか？

A： いいえ、まったくありません。

Q： しかし、あなたに訴訟が起こされた時から、そしてマクレラン氏が抗弁の代理人として指定されたすぐ後の、あなたとマクレラン代理人との関係はどのようなものでしたか？ あなたとマクレラン代理人の間に、以前存在した関係とちょうど同じだったと考えますか？

A： 私はマクレラン代理人が任用されたと知っていました。私はマクレラン代理人を知っており、保険会社のために——保険会社を通じて、私にかわって彼が行動していることを当然のように思っていました。それで、あなたの質問に答えていますか？

Q： そうですね、それではあなたは、あなたとマクレラン代理人との関係を、その訴訟目的での代理人と依頼者の関係とみなしていたというのですか？

A： その訴訟目的では、そうです。

Q： さて、1964年7月20日、琉球列島米国民政府（USCAR）民事裁判所のFECON敗訴判決が得られた時に、その判決に上訴するかどうかをあなた自身で決めましたか？

A： いいえ、というのは、私は判決の意味が分からなかったからです。私は判決がなされたことを理解した、それだけです。

Q： しかし、上訴はなされたのですよね？

A : 私の知る限り、そうです。

Q : 上訴は誰の決定だったのですか——あなたの、または誰か他の人の決定ですか？

A : 私は関知しませんでした。

裁判長 : ここで15分間休憩してはいかがでしょう、もし反対でなければ、代理人？

ヘイグッド代理人 : 分かりました。

裁判長 : 陪審員の皆さん、裁判所が前にあなた方に出した警告を心に留めておいて下さい。

15分以内に戻って下さい。

(続く)